

# 西部パレット利用者連絡会ニュース

【発行】西部パレット利用者連絡会幹事会

【発行日】2010年11月7日 NO.7号

## ● 11月1日 川勝県知事を訪問 7167筆に及ぶ署名を届けてきました

利用者連絡会は、現在地での西部パレット存続を願う私たちの気持ちを直接、川勝知事に届けたいと、9月初めに川勝知事との面会を申し込んでいましたが、2か月たった11月1日に7167筆(団体141、個人6878)及び署名者のメッセージがついた148のネット署名の束を知事に手渡すことができましたのでご報告いたします。

静岡県庁を訪れた幹事会メンバーを中心とする6名は以下の通りです。

- ・ 斯波千秋 (NPO 法人六星代表理事、ウイズ半田施設長)
- ・ 寺田博男 (浜松ゆうゆうの会)
- ・ 市川健悟 (静岡県視覚障害者協会理事、浜松市視覚障害者福祉協会会長)
- ・ 戸塚征彦 (NPO 法人磐田まちづくりネットワーク)
- ・ ディマス・プラディ (カラズ、在日インドネシア留学生会、浜松学院大学学生)
- ・ 大野木里美 (NPO 法人浜松 NPO ネットワークセンター事務局長)



訪問者6名は、それぞれの立場から、なぜ西部パレットが大事な場所なのか説明しましたが、障害のある人たちが自身がボランティア活動をする喜びについての話にじっと耳を傾けている知事の姿は印象的でした。

また、訪問メンバーの一人である在住外国人代表としての若者の存在は大いに知事の関心をひいたのではないのでしょうか。さらに、昨年「知事へのラブレター」に目を通され、知事あての大学生からの存続の願いを見て、知事は「嬉しいね」と言われましたが、市民活動の新しい担い手としてのこうした若者の登場は、誰にとっても元気をもらえるできごとです。パレットが若者にいかに支持を得ている施設であるかを知事が理解されたことを願います。



15分の予定が30分近くになった面会には、担当部局の職員も立ち会いましたが、最後に知事は「皆様の気持ちは良く分かりました。県民の税金を預かる身として事務当局の話も聞きながら結論を出していきたい。皆が幸せになるような方向で。」と述べられました。

1年前、県事業仕分けの対象となった西部パレットの今後について半年にわたって県と一緒にあって討議しました。その結果、7月には現在地での存続を要望する決定を行い、8月には県民

会議を開催し、多くの参加者から現状維持の意見をいただきました。今後、県の判断に注目していきますが、面会時に「これから、どの様にパレットを生かしたいか？」と知事からの質問が何回かあったこともお伝えしたいと思います。私たち自身、西部パレットを生きた県の施設として活用し、活動をますます活発なものにしていく必要があります。頑張りましょう。